

≪阿南市在宅医療・介護連携支援センター事業≫
 介護サービス事業所部会【報告書】

サービス種別	グループホーム部会		
開催日時	令和8年2月24日(火) 10:30~12:00	開催場所	阿南市役所202会議室
部会代表者	濱田	報告者	濱田
議題	①阿南市在宅医療介護連携推進事業「4つの場面」に関する協議 ②グループホームの利用料金に関する協議 ③令和8年度 事業所連絡会 部会長・副部会長の選任		

議題①	阿南市在宅医療介護連携推進事業「4つの場面」に関する協議		
検討した項目	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の療養支援(高齢者SOSネットワーク、徘徊対応) ・入退院支援(情報共有シート、退院時カンファレンス) ・緊急時の対応(夜間・休日の連絡体制、ACP) ・看取り(連携強化、職員支援、家族支援) 		
検討内容	<p>日常の療養支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者SOSネットワークの活用が進まず、徘徊事例が増加。 ・警察・消防との連携不足、情報共有の遅れが課題。 ・令和8年度は啓発活動、認知症理解講習会、ケアカフェ参加を通じた多職種連携を強化。 <p>入退院支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療機関ごとに情報共有シートの書式が異なり、統一の必要性が高い。 ・阿南市HPに統一シート(PDF/Excel)が掲載されており、活用を推奨。 <p>緊急時の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜間・休日の連絡体制に不安が残る。 ・救急搬送時の付き添い不要化など一部改善あり。 ・ACPの重要性を再確認し、阿南市版エンディングノート「たまたま箱」の活用を推奨。 <p>看取り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看取り実施事業所は増加傾向。 ・家族・医療・介護の連携、ケアの標準化、職員の心理的負担が課題。 ・事例検討会、家族支援プログラム、ACP講習会の活用を推進。 		
結論	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者SOSネットワークの活用促進と徘徊対応強化を令和8年度の重点テーマとする。 ・入退院時の統一情報共有シートを積極的に活用し、地域全体での標準化を進める。 ・ACPの普及と「玉手箱」ハンドブックの活用を推進し、緊急時対応の質を高める。 ・看取りケアにおける多職種連携と職員支援体制を強化する方向で一致。 		
残された課題	<ul style="list-style-type: none"> ・統一情報共有シートの普及と医療機関での運用定着。 ・退院時カンファレンスの実施に向けた医療機関への働きかけ。 ・看取りケアにおける家族・医療・介護の連携強化と職員の心理的支援体制の整備。 ・グループホーム入居者の重度化に対する医療側との認識調整。 		
備考			

議題②	グループホームの利用料金に関する協議
検討した項目	<ul style="list-style-type: none"> ・利用料金アンケート結果の共有 ・物価高騰に伴う料金改定と運営状況 ・入居者属性の変化と経営課題 ・今後の料金設定・経営改善の方向性
検討内容	<p>利用料金アンケート結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居住費、食費、光熱水費、共益費、管理費、その他費用について、事業所ごとの料金一覧が共有された。 ・各事業所が今後の料金設定や経営改善を検討するための基礎資料として活用することを確認。 <p>料金改定と運営状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物価高騰の影響で、食費・光熱水費を中心に料金改定を検討・実施する事業所が増加。 ・食費徴収方法は多様(例:日額固定、実食ベース、セッティング状態での徴収など)。 ・おやつ代の徴収有無や金額も事業所によって差がある。 ・阿南市内のグループホームは全体的に料金が安く、経営圧迫が顕著。 ・運営工夫として、米を自作するなど自給自足の取り組み事例も紹介された。 <p>入居者属性の変化と経営課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入居希望者の重度化・医療依存度の上昇、短期入退院の増加により、入居期間が短期化。 ・病院側がグループホームを「すぐに帰れる場所」と認識している一方、現場では認知症ケア専門施設としての特性が理解されていないというギャップが存在。 ・入院期間中の居住費徴収や退去ルール(3ヶ月目安)に関する経営的課題が指摘された。
結論	<ul style="list-style-type: none"> ・共有されたアンケート結果をもとに、各事業所が料金設定や経営改善の検討を進めることで一致。 ・物価高騰の影響を踏まえ、適正な料金水準の確保が必要であるとの認識を共有。 ・入居者の重度化に対応するため、医療機関との連携強化やケア体制の見直しが求められる。
残された課題	<ul style="list-style-type: none"> ・物価高騰に伴う料金改定のタイミングや水準を、地域全体である程度そろえるための調整。 ・重度化・医療依存度の高い入居者への対応力向上と、医療機関との認識ギャップの解消。 ・入院中の居住費徴収や退去ルールの明確化と、経営安定化のための仕組みづくり。 ・人材確保と職員高齢化への具体的な対策の検討。
備考	

議題③	令和8年度 事業所連絡会 部会長・副部会長の選任
検討項目	<ul style="list-style-type: none"> ・令和8年度の部会長・副部会長の選任 ・任期や市役所、在宅医療介護連携支援センターのサポート体制 ・新体制での部会運営方針
検討内容	<p>部会長・副部会長の選任</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度で現任が交代となるため、令和8年度の新体制を決める必要があった。 ・那賀川町の事業所(なかがわ苑、スマイル家族、那賀川たんぼぼ)に立候補を促し、調整を行った。 <p>任期と運営体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部会長・副部会長の任期は1～2年が望ましいとされているが、今回は1年交代で運用を開始する方向で検討。 ・市役所、在宅医療介護連携支援センターは会議案内フォーマットの提供や事務作業のフォローなど、事務局的な支援を継続する方針。 ・新体制の役割と期待 <p>新部会長・副部会長は、他部会との情報共有の機会を活かし、グループホーム部会の円滑な運営を進めることが期待される。</p>
結論	<ul style="list-style-type: none"> ・なかがわ苑が令和8年度のグループホーム部会の部会長・副部会長をスマイル家族、那賀川たんぼぼが担うことで合意。 ・任期はまず1年交代で運用し、状況に応じて柔軟に見直す。 ・市役所、在宅医療介護連携支援センターが新体制をサポートし、部会運営が円滑に進むよう支援する。
残された課題	<ul style="list-style-type: none"> ・部会長・副部会長の負担軽減策や、役割分担の明確化。 ・1年交代制が適切かどうか、今後の運用状況を踏まえた検証。 ・他部会との情報共有をどのように部会運営に活かすかの具体化。 ・新体制がスムーズに機能するための引き継ぎ・サポート体制の強化。
備考	

【会議風景写真】

